

2008年度 音楽博物館 活動報告

音楽博物館は学内で唯一の「常時一般公開された施設」であり、「学外への広告塔」としての役割を持っている。また学内に向けては、学生たちから専門以外の楽器や音楽への関心を引き出し、「幅広い音楽体験の場」として役立つことが必要である。これらの使命を達成するため、2008年度は本館を利用される方への「きめ細かい対応」をこれまで以上に心がけることを第一目標とした。

ガイド・ツアーでは、楽器の実演をできるだけ多く取り入れ、“音が聴ける”ガイドを目指したこと、グループ見学だけでなく個人の来館者も参加できるよう、日時を設定した定例ガイド・ツアーを実施したこと、自由に音の出せる楽器のコーナーを設けたこと、などによって来館者の満足度向上に努めた。その結果、来館者数も増加し、“楽しい博物館”との評価が定着してきたという手応えを得ている。今後も引続き学内外の要望に応えられるよう改善を図っていきたい。本年度のトピックとしては、本館所蔵のG.グアルネーリ製(1735年)ピッコロ・ヴァイオリンが、製作地クレモナでの展示会「クレモナの1730 - 1750年代 ヴァイオリン製作の最高峰」に招待されたことが挙げられる。ヴァイオリン製作の黄金期に産み出された名器たちが世界中から集められたこの催しに参加できたことは、本館にとっても名誉なことであった。2008年度の活動の詳細は以下の通りである。

I 研究・教育普及活動

(1) 企画事業

コンサート、セミナー、ワークショップ等を開催した。会場はいずれも本館展示室。

①第26回ミュージアム・セミナー「世界の太鼓」～文化の継承～

2008年7月12日(土)14:00 お話と演奏：越智恵(太鼓館館長)



ボウラン(アイルランド)



ガラムト(パプア・ニューギニア)



ガタム(インド)



ジェンベ(マリ)

②第64回ミュージアム・コンサート

「青銅の煌めき」～インドネシア・バリ島のガムラン～

2008年7月26日(土)14:00

お話:小林江美(ガムラン奏者) 舞踊:小谷野哲郎(バリ舞踊家)

演奏:バリ・ガムラン演奏団“スダマニ”



仮面舞踊 トペン(王様)



仮面舞踊 トペン(側近)



仮面舞踊 トペン(大臣)



仮面舞踊 トペン(翁)



器楽曲 ウジャン・マス



ケチャ



スリン



舞踊 パラワキオ

③ワークショップシリーズ「ガムラン研修会」

日程：2008年8月4日(月)・8月6日(水)・9月13日(土)

指導：小林江美(バリ・ガムラン奏者)

④第65回ミュージアム・コンサート 時空を越えて・・・「スーパーリコーダーカルテット」

2009年2月14日(土)14:00 お話と演奏：藤田隆(教授)

演奏：秋山滋(講師) 北村正彦(東京リコーダー協会講師)

松浦孝成(東京リコーダー協会講師)



演奏中



楽器の紹介



バロック・リコーダーとモダン・リコーダーの
ピッチの違いについての解説



箱型のコントラバス・リコーダー
通称「箱バス」

⑤ワークショップ・シリーズ「古典ピアノを弾いてみよう」(在学生及び科目等履修生対象)

2009年2月27日(金) 13:00～16:30 指導:本岡浩子

⑥第27回ミュージアム・セミナー「ブータンの仮面劇」

2009年3月14日(土) 14:00

お話:西岡信雄(理事長・名誉教授) 演奏:伝統芸能団“プンツォ・ダヤン”



仮面舞踊 ダムツェ・ンガ・チャム



歌と踊り ラヤ・ピ



歌と踊り ベダ



歓迎の歌と踊り



仮面舞踊 ダムツェ・ンガ・チャム



ダムニエンの解説

(2) 学内協同企画事業 [会場は全て本館展示室]

①シンガポール アングロ チャイニーズスクール 見学

関西シンガポール協会からの依頼により実施。

2008年6月3日(火)14:00～15:30 案内：松田淳一



トロンバ・マリーナの解説



シークの解説

②大阪府立池田北高等学校 見学

大阪府立池田北高等学校音楽科の生徒24名が来館。

本館所蔵品の中から、主にバロック時代以前の古楽器・楽譜等を中心に案内。

2008年6月24日(火)15:00～16:30 案内:塩津洋子

③富山県立呉羽高等学校 見学

富山県立呉羽高等学校の生徒3名が大学構内・施設見学の一環として来館。

2008年7月30日(水)14:30～17:00

④兵庫県立香寺高等学校 見学

兵庫県立香寺高等学校の生徒30名が授業「キャリア・プランニング」の一環として来館。

2008年10月10日(金)10:45～11:30 案内:塩津洋子 松田淳一

⑤兵庫県立西宮今津高等学校 見学

兵庫県立香寺高等学校の生徒40名が来館。

2008年10月24日(金)9:30～11:30 案内:塩津洋子 松田淳一

⑥神戸山手女子高等学校 見学

神戸山手女子高等学校の生徒55名が本学見学の一環として来館。

2009年1月26日(月)10:00～11:00 案内:塩津洋子 松田淳一

(3) 学外提携事業 [会場は全て本館展示室]

①守口教育研究会 (小学校音楽部会) 研修

2008年8月1日(金)14:00～16:00 21名来館。

主催: 守口市教育研究会 案内:松田淳一

②川西市教育委員会 研修

教職経験者を対象とした研修。12名来館。

館内見学後、本館所蔵弦楽器によるミニコンサート「悠久のシルクロード」開催。

2008年8月5日(火)10:00～11:30

主催:川西市教育委員会 案内・演奏:松田淳一

③旅の本棚「名器15挺の饗宴 ストラディバリウス」

(株)旅の本棚の企画ツアーとして、本館の見学ツアー及びミニコンサートを開催。

14名来館。

2008年9月6日(土)11:00～12:30 主催:(株)旅の本棚 案内・演奏:松田淳一

④芦屋市公民館企画事業「気分は音大生 芦屋川カレッジ見学会」

芦屋川カレッジの受講生100名来館。

2008年9月17日(水) 10:00～11:20 13:30～14:55

主催:芦屋市公民館 案内:藤田隆(教授)

⑤平成20年度けやきの森市民大学秋期講座／大阪音楽大学公開講座

「音楽の宝石箱 ～様々な輝きとの出あい～」大阪音楽大学音楽博物館見学

2008年11月7日(金)14:30～16:00 6名来館。

主催:大阪音楽大学・高槻市生涯学習センター 案内:松田淳一

⑥岡山市足守公民館歴史講座

2008年12月13日(土)10:30～11:30 40名来館。

主催:岡山市足守公民館 案内:松田淳一 小西潤子 松浦伸吾

⑦(株)自然総研企画「音楽博物館見学&ミュージアムコンサート」

2009年1月26日(土)13:00～16:00 30名来館。主催:(株)自然総研 案内・演奏:松田淳一

(4) 研究活動

・ 関西洋楽受容史研究(担当:塩津洋子)

①第59回日本音楽学会全国大会ラウンドテーブル「音楽の『日本化』の諸相」にパネリストとして参加。“音楽の日本化”の事例として、関西における浅草オペラの公演実態を紹介。

②国際日本文化研究センター・シンポジウム「戦間期(1918 - 1938)の大阪の音楽と近代化」に参加。「大正期の関西の洋楽―和洋折衷と本場志向―」と題して発表。

③論文「明治43年京都の洋楽事情―ある商家の若妻の日記を基に―」執筆。当該日記中の洋楽関係記述を検証・補完し、明治43年当時の京都の洋楽事情を明らかにする。本誌に掲載。

④研究プロジェクト「本邦洋琴変遷史 ピアニスト小倉末子とその時代」に参加。2008

年度にプロジェクト結成。“明治大正期のピアノ受容実態”研究を担当。2009年度に研究会と日本音楽学会全国大会でのシンポジウム開催を予定。

・タンジェント・ピアノに関する研究(担当:青山一郎)

2008年度、本館所蔵のタンジェント・ピアノ(1780年頃イギリスまたはアイルランド)の修復作業を行った。ピアノ製作史の中であまり語られることのない希少な楽器に光をあて、修復によって音を甦らせると共に、その価値を再評価する。報告書を本誌に掲載。

・博物館の教育的意義に関する研究(担当:松田淳一)

論文「博物館の教育的意義とその存在の必要性について」を執筆。映像や印刷等で見ることと、実物を見たり触ったりすることとの認知度の相違から、博物館の必要性を解明する。本誌に掲載。

・“創造活動”に関する研究(担当:松浦伸吾)

論文「能勢の人形浄瑠璃における創造性①—文楽、淡路・阿波の人形浄瑠璃との比較を中心に—」を執筆。厳格な伝統に対して共鳴あるいは対峙しながら、様々な素材と着想を得て創造を展開する能勢の活動における現代の意味を考察する。本誌に掲載。

(5) 学外団体への協力

①日本テレマン協会創立45周年記念特別公演「クラシカル楽器によるベートーヴェン交響曲全曲&合唱幻想曲・荘厳ミサ曲Vol.2」の演奏用として楽器貸出し

2008年4月28日(月)19:30 会場:いずみホール 主催:日本テレマン協会

貸出資料:サクソバット(テナー、バス) マウスピース 計4点

②日本テレマン協会創立45周年記念特別公演「クラシカル楽器によるベートーヴェン交響曲全曲&合唱幻想曲・荘厳ミサ曲Vol.3」の演奏用として楽器貸出し

2008年5月16日(金)19:30 会場:いずみホール 主催:日本テレマン協会

貸出資料:テナー・サクソバット マウスピース 計2点

③日本テレマン協会創立45周年記念特別公演「クラシカル楽器によるベートーヴェン交響曲全曲&合唱幻想曲・荘厳ミサ曲Vol.5」の演奏用として楽器貸出し

2008年7月18日(金)19:30 会場:いずみホール 主催:日本テレマン協会

貸出資料:サクソバット(テナー、バス) マウスピース 計4点

④日本テレマン協会創立45周年記念特別公演「クラシカル楽器による合唱幻想曲・荘厳ミサ曲Vol.6」の演奏用として楽器貸出し

2008年10月20日(月)19:30 会場:いずみホール 主催:日本テレマン協会

貸出資料:サクソバット(テナー、バス) マウスピース 計4点

- ⑤吹田中央図書館「弦楽器の秘密を探る 第二章」の演奏用・呈示用として楽器貸出し
 2008年11月2日(日)14:00 会場:吹田市中心図書館 主催:吹田市
 貸出資料:ストローヴァイオリン ミュートヴァイオリン レバーブ 馬頭琴 計7点
- ⑥伊丹アイフォニックホール「沖縄公演関連展示」の展示用として楽器貸出し
 2008年9月16日(火)～11月20日(木) 会場:伊丹アイフォニックホール 1階ホール
 主催:伊丹アイフォニックホール
 貸出資料:三線 三線爪 横笛 三板 唢呐 四つ竹 白太鼓 弓 銅鑼 バチ
 計13点
- ⑦展示会「クレモナの1730 - 1750年代 ヴァイオリン製作の最高峰」の展示用として楽器貸出し
 2008年9月27日(土)～10月19日(日) 会場:クレモナ市立博物館
 主催:FONDAZIONE ANTONIO STRADIVARI(イタリア ストラディヴァーリ財団)
 貸出資料:G.グアルネーリ製(1735年)ピッコロ・ヴァイオリン



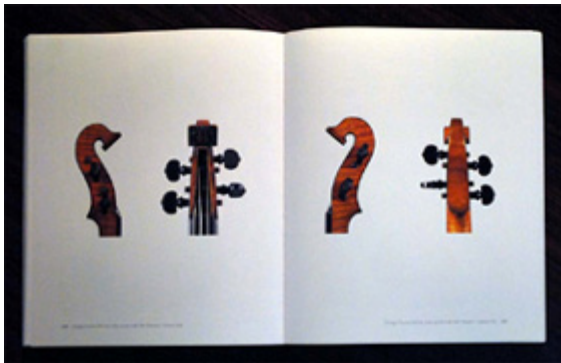
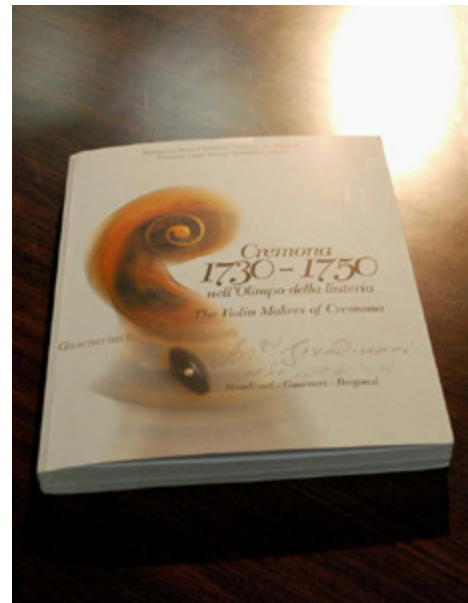
開会セレモニー



展示会場



展示目録



現地新聞「La Cronaca」に掲載された
展示会の様子



⑧唐津城築城400年記念「音に恋した美術展」の展示用として楽器及び資料貸出し

2008年6月21日(土)～7月27日(日)

会場:唐津市近代図書館 美術ホール 主催:唐津市近代図書館

貸出資料:マンドリン ギター ヴィオラ・ダ・ガンバ リュート・マンドーラ
ペダルハープ ヴァイオリン ヴァイオリノー・ピッコロ キット
ストロー・ヴァイオリン ステッキ・ヴァイオリン ブザン・キット
版画「ドイツ人舞踏教師」 ペン画「アトリエのトゥルト」
ヨーゼフ・ヨアヒムの写真 ハーディング・フェレー 計18点

⑨兵庫県芸術文化協会「音楽へのいざない教室」の演奏用として楽器貸出し

2008年12月18日(木) 14:00～ 会場:兵庫県民会館 主催:兵庫県芸術文化協会

貸出資料:サクソフォン(ソプラノ、アルト、テナー、バリトン)計4点

⑩朝日放送「歴史街道～ロマンへの扉」番組収録協力

収録:2008年12月1日(月) 展示室

出演:Vn演奏 松田淳一 ガムラン演奏 ガムラン研究会

放映:2009年1月15日(木) 18:54～19:00

⑪日本テレビ放送「世界一受けたい授業」の演奏・呈示用として楽器貸出し

西岡信雄(名誉教授)番組出演に際し、所蔵楽器を貸出し。

番組中で実際に演奏に使用された。

放映:2009年2月28日(土) 19:56～20:54

貸出資料:ササンド カチャピ ウォータードラム モッコ ガラムート アブ
サウンガウ ガダム 月琴 ヴァリハ ガムラン カホン ジュゴッグ
ネパール・ナルシンガ エオリアンハープ 計18点

(6) 学内協力

①サマーオペラ「ドン・ジョバンニ」の演奏用として楽器貸出し

2008年7月4日(金) 18:00 7月6日(日) 14:00

会場:ザ・カレッジ・オペラハウス 主催:大阪音楽大学 ザ・カレッジ・オペラハウス

貸出資料:サクバット(テナー、テナーバス、バス) マウスピース 計9点

②ミレニアムホール特別講座

人間と音楽「ホルン8重奏の魅力」の演奏用として楽器貸出し

2008年6月28日(土) 14:00 会場:大阪音楽大学ミレニアムホール

主催:大阪音楽大学エクステンションセンター

貸出資料:アルペンホルン

③第21回トロンボーン・アンサンブル・コンサートの演奏用として楽器貸出し

2008年11月7日(金) 18:00

会場：ザ・カレッジ・オペラハウス 主催：大阪音楽大学

貸出資料：アルト・サクバット(アルト、テナー、テナーバス、バス)

マウスピース 計10点

(7) 授業・研修会等への対応

本館を使用して行なわれた授業で、展示楽器資料の解説や試奏、文献・視聴覚資料検索について助言を行った。また、学校関係グループ等に対し、館内ガイドツアーを行った。

本学授業・・・40件

グループ見学・・・43件(学内外提携事業件数含む)

(8) 情報提供

学内外の研究者、本学学生よりのレファレンスには随時対応し、新聞、放送、情報誌などのマスメディアに対しても情報提供を行った。取材・情報提供及び文献調査等の依頼は80件あった。

(9) インターンシップ生の受け入れ

①学生への教育の一環としてインターンシップ(就業体験)を実施した。学生は館スタッフ指導のもと2週間、博物館業務全般を体験した。

実習生：本学短期大学部(男子学生)1名

期間：2009年2月14日(土)～2009年2月23日(月) 9:00～17:00

実習内容：展示ケース清掃、楽器展示補助、ガムランメンテナンス、
展示キャプション調整、関西洋楽受容史関連現在資料分類、
音楽関連新聞記事整理、団体見学用パンフレット作成、
CALIS(書籍及び視聴覚資料書誌データベース)入力

②中学生の地域体験学習(職場体験)を受け入れた。生徒は館スタッフ指導のもと、博物館業務を体験した。

・豊中市立第六中学校「職場体験学習」

実習生：女子生徒2名 期間：2008年10月28日(火)～10月30日(木)

実習内容：展示室見学、展示ケース清掃、校史資料の配架整理、新聞資料整理

・伊丹市立松崎中学校「トライやるウィーク」

実習生：女子生徒3名 期間：2008年11月10日(月)～2008年11月14日(金)

実習内容：展示室見学、展示ケース清掃、楽器展示補助、楽器展示台作成、
他館への楽器貸出し梱包補助、ジュゴグ資料写真撮影補助、
ガムランメンテナンス、楽器写真資料整理、リーフレットラベル貼り
関西洋楽受容史関連現在資料分類

(10) 学芸員実習の受け入れ

学芸員実習生を受入れた。実習生は館スタッフの指導のもと、博物館業務全般を体験した。

2008年9月8日(月)～2008年9月13日(土) 静岡大学 学生2名

2008年9月9日(火)～2008年9月13日(土) 関西学院大学 学生1名

2008年9月13日(土)～2008年9月20日(土) 静岡大学 学生2名

2008年9月13日(土)～2008年9月19日(金) 関西学院大学 学生1名

実習内容：〔展示〕館内展示説明、展示ケース清掃、展示ケースメンテナンス、

立体資料取扱い及び展示方法、ジュゴック組立て

〔資料整理〕関西洋楽受容史関連現在資料分類、音楽関連新聞記事整理、

CALIS入力(書籍及び視聴覚資料書誌データベース作成)、

立体資料データファイル作成(楽器の研究)

〔演奏〕ガムラン奏法研修

Ⅱ 資料収集・管理活動

文献資料・視聴覚資料

(1) 資料の収集・整理

過年度に引き続き、音楽博物館の研究領域に対応した新資料分類により、次の通り文献・視聴覚資料の整理を行った。

①新規受入れ資料整理

CALISデータ作成、レファレンス室及びK406～K409資料室に配架。2008年度受入れ資料のうち登録資料数は下記のとおりである。

購入：	図書	57点	寄贈：	図書	44点
	視聴覚	11点		視聴覚	5点

②校史関係書籍のCALISデータ化と配架

校史資料として管理していた他大学年史・逐次刊行物等を音楽博物館図書資料に組み入れ、書誌データをCALISで管理することにした。この作業によりPCでの校史関係書籍の検索が可能になった。資料はK406資料室にて地域別団体順に配架。この作業に伴い、レファレンス室に配架していた他大学年史をK406資料室に移動、音楽学部を有する大学の校史書籍のみをレファレンス室の配架とした。

③旧蔵資料整理

CD書誌データの遡及入力(作業継続中、次年度完了予定)。資料の書誌情報のみ入力されていたCDのデータに曲ごとの詳細情報を追加入力、CALISでより詳細な検索が可能になった。カセットテープ書誌データの遡及入力、視聴覚資料付属図書のデータ作成・配架。

④ファイル資料整理

旧蔵逐次刊行物連載記事・論文・冊子等、書籍以外の関係資料を収集、データ入力後ファイリングしてK409資料室に保存(作業継続中)。

⑤除籍

旧複数部署で所蔵していた書籍の重複分除籍作業を行う。CALISデータに紙原簿から経理情報を入力後、除籍処理(作業継続中)。

⑥所蔵資料数の算出

音楽研究所・楽器博物館統合以降、各部署での資料整理形態が様々であったため困難であった所蔵資料点数の算出方法を設定、以後の各所蔵点数はこの算式に従うことにする。

(2) 館内催事資料作成・保存

ミュージアム・コンサート／セミナー等催事のチラシ、ポスター、入場券、プログラム及び開館カレンダーを作成、学内外への広報を行う。作成資料は催事参加者集計とともに催事資料として保存。

(3) 館関係資料収集・保存

書籍・雑誌・メディア等に掲載された、館の紹介・収蔵品・催事案内などの記事を収集、館関係資料として保存。

(4) 展示・公開

館員が現地収集した資料をもとに、楽器演奏の展示室放映用DVDを製作(継続中)。

立体資料 (楽器資料及び楽器以外の立体資料)

(1) 資料の収集・整理

①新規資料の収集

- ・購入 なし
- ・受贈 ディジェリドウ 1点
 - 扇(ガムランに付属) 1点
 - 絵(ガムランに付属) 1点
 - マダル 1点
 - 伏見人形・鳩笛 1点
 - サヌカイト製石琴 1点
 - ミュージカル・ソー 1点
- ・寄託 カリヨン練習器 1点

新規資料1点ずつの写真撮影、資料カード及びCALISデータを作成。

②登録番号の整理

立体資料の整理区分を変更、立体資料本体を大学資産登録(登録番号に00番を付する)、付属物を大学非資産登録(登録番号に01番を付する)とする。既存資料のうち162点を大学資産登録に変更。これに伴い資料への登録番号付け替え作業及びCALISデータを修正(作業継続中)。

③CALISデータの修正

楽器写真をより見やすいものに変更、楽器以外の資料(付属品・楽器外立体資料)の写真撮影及びCALISへのデータアップロード。

(2) 資料の保存・保全

①古典ピアノのシェイクダウン(≡弾きこなし)を実施し、状態を記録している。学外技術者よりメンテナンス及び保全についての助言を受けている。

②資料番号札の最適化を行うため、新規番号札へ付け替え作業を行う(継続中)。

③学外技術者の協力を得て、アメリカン・オルガンの修復を行い演奏可能な状態となった。また、修復技術習得・研究のため学外においても修復を実習。

④タンジェント・ピアノを修復。詳細は本誌掲載の報告書を参照。

(3) 展示・公開

①体験コーナーの設置

来館者に楽器を身近に親しんでもらえるよう自由に試奏できる楽器のコーナーを設置。現在、ヴァイオリン、ミュージカル・ソー等12点を展示、来館者には概ね好評。

②展示替え

ジュゴッグ(竹製ガムラン・インドネシア)を組立て、事務室外壁及び館内に展示。事務室前展示ケースにミニチュア楽器を展示。郷土玩具・洋楽受容史関連資料・ハーモニカ等、収蔵していた資料も可能な限り展示した。現在、展示資料数は約1200点。

③展示ケースの整備

木目色の展示ケース壁面に白色壁紙を張付、館内展示ケース仕様を統一化。資料個体の外郭がよく見える状態となった。

(4) 調査研究

①資料ファイルの整備、キャプションの整理

既存資料ファイルの内容を確認、不明点の多い楽器の追調査・関連文献の収集を行い情報の充実を図った。この調査で詳細が判明した楽器のキャプション記載事項を整理変更。

関西洋楽史資料・校史資料

(1) 現在の洋楽活動資料の収集・整理

現在の洋楽活動を示す記録資料には演奏会のチラシ、チケット、プログラム、各演奏会場や音楽関係諸機関が発行している逐次刊行物、新聞・雑誌記事などがあり、これらを以下の方法により恒常的に収集している。

①関西2府4県の音楽関係諸機関による催物情報の郵送・FAX

②インターネット

③主要日刊紙や音楽雑誌・新聞

④月1回、京阪神主要プレイガイドや音楽事務所など関係機関への出張

近年、老朽化による建て替えや、昨今の経済状況などにより閉館したり管理者が変わったりと、文化施設を取り巻く環境に変化が見られる。資料の収集にあたってはこれらの動きを見逃すことなく行う必要がある。

主要日刊紙の記事収集については従来1人の担当者が行ってきたが、日刊5紙を1紙ずつ5人で担当することにより、作業の能率化を図った。

本年度新規収蔵資料数は約12,000点。

(2) 過去の洋楽活動資料の収集・整理

現在の洋楽活動資料と同時に、日本における洋楽受容が始まった明治期から現在に至るまでの過去の活動に関する資料も継続的に収集・整理している。

明治期のものについては新規整理資料約1,000点を既存のデータファイルに収蔵する作業が残っており、次年度完了の予定である。

昨年度受贈した昭和期の資料は燻蒸を行ったが、整理作業は次年度行う予定である。書籍、楽譜、逐次刊行物、演奏会プログラム等722点。

(3) 校史資料の収集と整理

学内各部署に対し、資料提供を依頼。月2回のペースで収集に回っている。加えて学内のパソコンネットワーク、学内LANからも資料の収集を行っている。新規収集資料は前年度未整理の過去資料とともに、データ入力および配架作業を行った。

また今年度の本学オペラハウス開館20周年に向けてオペラハウスに関する資料調査を受け、過去20年分の音楽関係の新聞、雑誌等逐次刊行物から資料を抽出。新たに約400点を収蔵した。今年度は大量の視聴覚資料の移管を受けたが、その整理作業は次年度に持ち越しとなった。過去の視聴覚資料の中にはメディアによってすでに身近に再生機器のないも

のもあり、できるだけ早い時期に新しいメディアへの変換を検討中。

校史資料の収集には学内各部署の理解と積極的な協力が必要だが、さらに充実できるよう収集方法等、課題解決を図りたい。収集資料の積極的な公開、有効な活用も求められているところなので、これにも応えられるよう体制を整えたい。

現在の総データ数は35,344件。本年度新規収蔵資料は1,654点。

その他

(1) 広報

①大学のホームページ改訂に伴い、音楽博物館ホームページを統一様式に変更。写真を多用し、視覚的に博物館の活動がうかがえる内容とし、不定期更新している。過年度に引き続き「関西音楽新聞」に音楽博物館のコラムを掲載。ケーブルテレビ、逐次刊行物等の取材に積極的に応じ、館情報を外部へ公開。

②催事案内DMを諸関係団体および個人、DM希望の来館者に対して年2回送付。博物館リーフレットとガイドツアー付グループ見学のご案内を作成・配布。本学教員への案内(授業・レッスンでの博物館利用について)を作成・配布。

③K号館敷地外壁に看板を設置。開館日時・入場料を記載、外部一般に対して開館情報をわかりやすく掲出。

(2) ガイドツアー

個人見学者を対象とした定例ガイドツアーを月2回行った。回ごとの参加人数にばらつきはあるが増加の傾向にある。

(3) 夏休み開館

昨年に引き続き8月1日～9日まで8日間夏休み開館を実施した。夏休み自由研究等の小中学生利用者が多く、臨時のガイドツアーを行った。

(4) ミュージアム・グッズ

展示品シール(ガムラン)を新規製作、販売。既存のシール、絵葉書も来館者に概ね好評、今後商品の充実を図る予定。

(5) ガムラン研究会への協力

学生自治会主催のガムラン研究会に練習場所・楽器を提供、学生の自主的な活動に協力。同会は大学祭、オープンキャンパス等にて演奏。



オープンキャンパス 2008年7月29日



大学祭 2008年11月1日

音楽博物館2008年度入館者数(2008年4月1日～2009年3月31日) 開館日:272日

学内			学外		学内・学外	合計
学生	教職員	授業参加者	個人	グループ 見学	催事参加者	
642人	159人	40回 640人	750人	43件 976人	8回 539人	3706人

音楽博物館2008年度スタッフ

館長:本岡浩子(教授)

研究員:塩津洋子(准教授)

総務担当:米澤琴子

文献資料・視聴覚資料担当:小西潤子(学芸員) 川添衣利 多田桃子

土橋祐貴子 保科晃子(2008年8月まで) 山田麗子

立体資料・展示室担当:松浦伸吾(研究技術員) 松田淳一(研究技術員)

永田正彰 増成春奈

関西洋楽史・校史資料担当:藤本葉子(学芸員) 相川梨江子

本誌執筆者(五十音順)

青山一郎(講師:ピアノ構造論)

塩津洋子(准教授:洋楽受容史)

松浦伸吾(研究技術員)

松田淳一(講師:ヴァイオリン 研究技術員)